



↓ 彭州から来た留学生のヤオさん(左端)とワン君(右端)。ニコールと一緒に「ピース」♪



↑ 7月に帰国した留学生のニコールさん(左)とマシュー君(右)。たくさん友だちができました。



NICE IN HOT FRIENDSHIP!



↑ さけまつりでお手伝いをしているのは、今年度の留学生サマンサさんとクリス君。



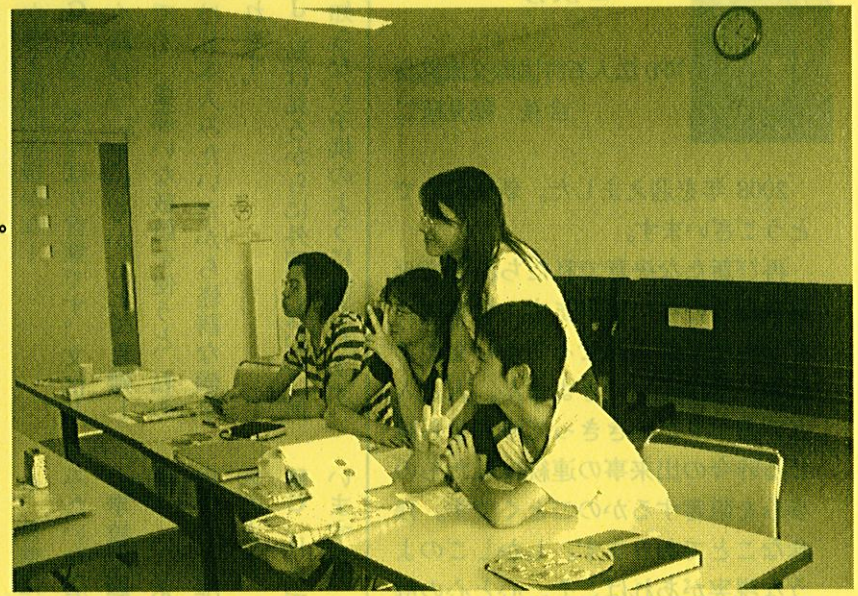
↑ ワールドフェスティバル2007を10月に南コミで開催しました。
← 今年のワールドフェスティバルは「ハロウィン」がテーマ。留学生も仮装をして大活躍!
→ AETと一緒にゲームをしたり、手作りバッグにも挑戦!



★日本で生活するという。成長を、くらしをサポートする。

『日本語学習支援』という活動。

日本で暮らすのに欠かせない『日本語』。留学生やALT(英語指導助手)など在住外国人の方たちを10年間、かけながら支え続けている、I.I.A登録日本語ボランティアの荒田ひろみさんにお話しをお聞きしました。



↑ 真剣に、楽しく日本語のレッスンを受ける姉妹都市・彭州市の留学生たち

○「日本語を教える」きっかけとなった出会い・出来事はありますか?

●ひとつ挙げるとすれば、10年前、姉妹都市キャンベルバリの留学生を受け入れた時、初めて日本語学習をしました。そして「これからもずっと、このように勉強できる場があればいいのに」と言い残していった言葉が大きな引き金になりました。

○「日本語を教える」活力になっているのは何ですか?

●学習者が日毎に上達していく様子を目の辺りにし、また彼等の心からの「ありがとう!」が本当に励みになります。ボランティア仲間も心強い存在です。カナダからこの学習支援に対し立派な楯や記念品を戴き驚きましたが、とても嬉しい事でした。

○石狩市での「日本語支援」の必要性については?

●石狩市は現在3カ国の都市と姉妹都市提携を結んでおり、在住外国人も200人近くになると聞いています。

また、今までIIAへ日本語支

援を求めてきている人達を見ても、今後、益々日本語ボランティアの必要性は増すと思えます。現在までカナダ・中国からの留学生、英語指導助手(ALT)、市在住のエチオピア・アメリカ・パキスタン人、市内中学校に通う中国人女生徒、中国人短期旅行者など、多数に対応してきています。

○どんな協力が得られれば、支援しやすくなりますか?

●まず、学習場所です。例えば、冬場の駐車スペース確保、家族に看護人や病人が出た場合、夜の学習時間など、今までのように個人宅の提供には何かと不都合なことが生じてきます。

しかし、現実には日本語学習支援を求める外国人がいて、学ぶ場所が必要なのです。無料で公共の施設を使用できるのが一番の改善策なのですが、今は暫定的に、コミュニティセンターを使わせていただいています。今が、本当に助かっています。今後も継続的に使用可能になれば、この支援活動の大きな推進力になります!

○「日本語を教える」事は、難しいのではないのでしょうか?

●「教える」という事はどんな事でも「易しいとは言えないと思います。」

「一緒に勉強する」という考えはどうでしょうか。専門知識よりも何よりも、ボランティアをする側の積極的な気持ちと「学びたい!」という学習者の気持ちを汲んで上げる事が大切だと思います。一度、レッスンの見学にいらつしやいませんか。アシスタントとしての参加も可能です。いつの間にか学習者との繋がりもでき、このボランティアならではの楽しい事も沢山あります。そして、もっと仲間を増やしたいと思っています。

日本語ボランティアに興味を持たれた方、是非ご連絡下さい。お待ちしております!!

お問合せ・NPO法人石狩国際交流協会事務局
TEL 64・5931 FAX 64・5932
Eメール:iaa@dream.ocn.jp

石狩の2人のAET(英語指導助手)はそれぞれの地域の学校で英語の指導にあたるほか、様々なことにチャレンジしているようです。今回はお二人の日本での様子についてインタビューしました。

—ジェイミーは英語とフランス語、クリスティーナは英語と中国語、二人ともバイリンガルで羨ましいです。

■ジェイミー(J) フランス語圏のケベックの大学に行つて、フランス語を覚えました。学校よりも普段の生活で自然に身についたと感じます。カナダはフランス語も公用語で小学生の頃から学ぶけど、授業だけで身につけるのは難しいです。

■クリスティーナ(C) フランス語と英語は親戚のようなものだし、中国語と英語の文法は似てるけど、日本語は全然違います。「てにをは」や、相手によって変わる話し方が難しいです。

—以前から日本には興味があったんですか。

■C 私は子供の頃から着物やアニメが好きで、大学で日本語もつていました。

■J 私は沖縄か北海道が希望の赴任先でした。自分で赴任先を決めることはできないので幸運です。

■C その人の興味や希望もありますが、日本の中でも田舎と都会では大きく異なります。AETの生活ぶりは赴任先によって一人一人違います。(▼)

—ダイナマイトロール？

■J 海老天が載ったやつ。海草の溶けた緑色のドリンクも飲みますよ。

—それ美味しいの？

■J うーん微妙。あと、豆腐は日本の方が断然おいしいです。

—こちらの生活でストレスを感じることはないですか。

■J 日本に来て時間がすごく気になるようになりました。

—カナダでは、家に呼ばれたときなどはちよつと遅れていくのがマナーだと聞きましたか。

■J シチュエーションによります。パーティーなら最初のうちはつまんないから1時間半後かな！

■C あと、やっぱり言葉です。文化と深く結びついているからとても難しいです。場違いな敬語を使うと、私の顔は日本人みたいだから怪訝な顔されます。

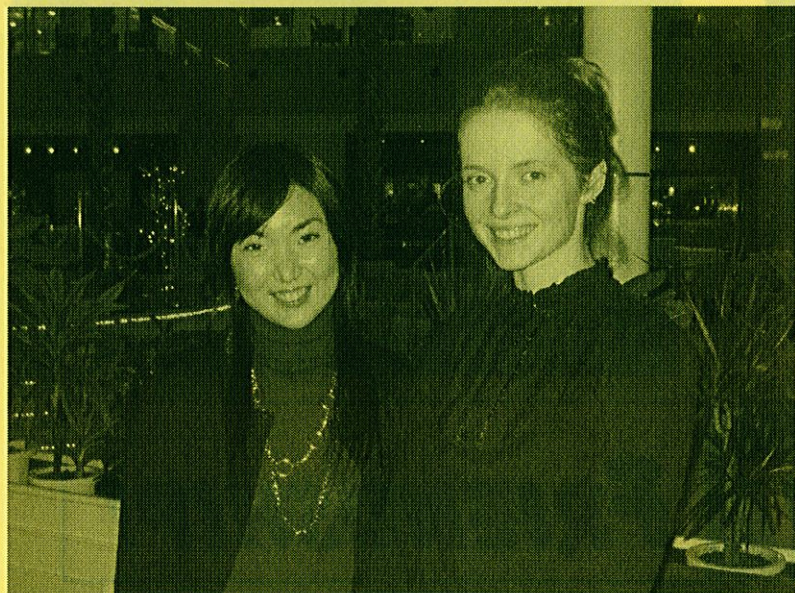
■J 私は見るからに外国人なので、何と知らない子供のように扱われます。

—日本人の教師と共に、力を合わせて授業を展開する外国人教師

ジェイミー&クリスティーナの「石狩ライフ」

注目の二人の真相に迫る—

AET [A: Assistant(助手) E: English(英語) T: Teacher(教師)]



◆ジェイミー・マードック(右)キャンベルリバーから車で30分のカンバーランド村出身。

◆クリスティーナ・ウォン(左)台湾生まれ。12歳からカナダ在住。

—クリスティーナは今年の9月からですが、厚田はどうですか。

■C 住みやすくていいところ。でも、風が強い。カナダでは零下50度も経験したけど、この吹雪には驚きです。—普段は何をしていきますか。

■C 地域の人たちとミニバレーをしています。コミュニケーションが小さいので、顔見知りになりやすいのが田舎のいいところ。お母さん達と週一回英会話教室もしています。(▼)

—これからしたいことは。

■C 来年は、ジェイミーのようにミュージカルに出ようと思っています。

—今年ヒロインを演じたジェイミーは？

■J すごく忙しかったから来年は休んで、もともと好きなジャズボーカルをやろうと思っています。あとは、日本中を旅行したい。お正月は、京都で「瞑想」してきました。

—AETのネットワークを生かして、日本人より日本を満喫していますね。最後に、お二人が今考えている将来について聞かせてください。

■J もともと日本やアジアの文化にすごく興味があるので、これからは様々なことを経験し、アジアの絞り染めなど、学んだことを伝えたいです。

■C 今は日本でいろいろなことを学んでいるけれど、もともと免疫学を学んでいたの、学校に戻ったら、再び医学の道に進みたいと考えています。



▲ハロウィンパーティで仮装した教え子たちと一緒に。

■J 石狩は友だちができて、忙しくて会えない人が多くてちよつと難しい。それで、国際交流協会のワールドフェスティバルに関わったり、自分でハロウィンパーティーを開いたりして交流を深めています。あとは、絞り染めや日本料理を教わったり。登山も好きで、大雪山や利尻富士も登ったけど、一番は浜益の黄金山。なまらいい！

—なまら！

■C 北海道弁を勉強してるんです。

■J あれまんずは！

—すごい厚田井知ってますね。ところで日本食は好きですか。

■J 大好きです。特に揚げ茄子、納豆、わかめ。ヘルシーでオイシー。

■C 海が近いので、新鮮な魚介類が多くて最高ですね。ラーメンも大好き。

—カナダ人は魚介類をあまり食べないんですか。

■C バンクーバーでは食べますよ。

■J 生魚よりもカリフォルニアロールやダイナマイトロールが多いかな。(▼)



左から:大森、高井、板谷、平野

ご挨拶



NPO 法人石狩国際交流協会
会長 稲見研二

2008年を迎えました。新年おめでとうございます。

再び新たな決意で私たち国際交流協会は今年に望みます。世相は必ずしも将来を見通せる明るいものではない事は否定できません。人と人との繋がりが乾ききって限界すら感じる昨今の出来事の連続は私たちの歩みを阻害するかのごとくです。残念なことであります。しかしこのような現実があればこそ、心と心の触れ合いを強め大きな喜びを手にしながら前に進むというのが石狩市の国際交流事業です。夢を追い、幸せな楽しい社会がこの地域で育つことを願います。これからもそうした国際交流を目指したいと考えます。更に透明性をたかめてこのNPO法人は市民の皆さまとともに明るい未来を求めて活動することになります。

特に今年はキャンベルリバー市との姉妹提携25周年、ワニノ市とは15周年と周年事業が重なり、例年とは異なる一年となりそうです。知恵を重ね、和を求めこの年の事業を全うしたく存じます。

市民の皆さまの強力な国際交流事業へのお力を戴きたくよろしくお願い申し上げます。

広報部『はーとふるメンバー』は、今年も頑張ってます！

- 「石狩の国際交流に関わる人たちの「はーとふる」な思いを感じとっていただければと思います。皆さんのメッセージもお待ちしています！」(部会長・高井)
- 「はーとふるは、4人で分担して作っています。取材、文書、編集など、自分の得意なことなので、どなたか一緒にしませんか！」(板谷)
- 「1億分の369人。会員の皆さんへ国際交流の『楽しい』と『笑顔の瞬間』をたくさんお届けしたいです。一緒に作ってみたい方、情報・写真大歓迎です☆」(大森)
- 「お茶を飲みながら、わきあいあいとしたムードの中で楽しく記事を作っています。読者の皆さんにも楽しんで読んでもらえればなーと思っています。いつでもウェルカムなので、ぜひご連絡ください！」(平野)